

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference
2000年(平成12年)6月号(通巻第9号)

生ごみから花が咲いた!



*生ごみ堆肥化実験プロジェクトの関連記事がP.5にもあります。

*この取組みは「町を花いっぱい」と(財)国際花と緑の博覧会記念協会からの援助も受けています。

生ごみ堆肥化実験プロジェクトでは、3月から豊中市緑丘の清谷池公園の一部を耕し、市民参加のガーデニングとして花の栽培を行っています。

昨年の8月から市役所食堂や大阪北生協、松下産業機器(株)食堂の生ごみを堆肥化する実験を行い、できた堆肥をこの花壇に使っています。堆肥は成分分析を行い、豊能の農家や池田市の園芸高校、市内の畑など、いろいろな所にも実験的に使用していただいています。

4月22日の花の植付け作業には豊中市花と緑の相談室の職員や子どもたちを含む地域住民約50人が参加され、マーガレットやポピーなどの植付けと水やりを行いました。色鮮やかな花々の成長をみなさんととても楽しみにされています。

とよなか市民環境会議のその他の取組みも、地域にじわじわと広がっていると感じます。みなさんの身近なところにも美しい環境という花々が咲き始めるといいですね。

本号のハイライト

- P. 1 生ごみから花が咲いた!
- P. 2 各部会・プロジェクトのこれまでの活動
- P. 6 99環境展ととよなか環境フォーラム
- P. 7 参加団体の横顔

各部会・プロジェクトのこれまでの活動

自然（ビオトープ）部会

豊中の自然に関心を

1月22日（土）の午後、千里川と猪名川の合流近くで「冬の水鳥観察会」が行われました。

当日は60名余りの参加で、集合場所の市役所からバスを2往復走らせる程の盛況ぶりでした。参加者が多いためいくつかのグループに分かれ、水鳥を中心に他の野鳥を含め21種類も見ることができました。参加者は、マガモやコガモ・ヒヨドリなどその特徴を聞き、望遠鏡で確認していました。

続いて春の七草調査が、2月1日～15日まで行われました。60名程の参加者が2人1メッシュ（約1000m×1000m）を受け持ち、セリ・ナズナ・ゴギョウなど7種類の生育を調べていきました。その結果は集計され、学校などのパソコンで見られるよう作業を急いでいます。

また5月13日には中央公民館で中間発表があり、調査に参加した人が20数名集まって大型のプロジェクターに映し出される結果に見入っていました。最後の感想の時に「2月の調査というのは時期的に早いので十分な結果になっていない」「今見ると七草も成長して花なども見られるが提出したものには記入され

ていない」等の意見も聞かれました。より正確なものにするには継続的な調査が必要かもしれません。

（山口）



産業（エコインダストリー）部会

ISOセミナーに協力



産業部会では、商工会議所と商工労政課が実施するセミナー企画の立案に協力して、市内の企業へ環境マネジメントの広報を行う機会としました。

講師には産業部会のアドバイザーである佐川直史さん（関西環境管理技術センターISO推進室長）、井上求さん（神戸環境計画研究所所長）、濱本信雄さん（松下産業機器株）の3氏から、ISO取得に向けた取組みの実際についてのお話をいただきました。会場には70名以上が参加し、盛んなセミナーになりました。

また、産業部会としては、各参加事業所の方々にエコオフィスチェックリストの記入を呼びかけ、協力いただきました。

今後もこのような機会をパートナーシップで取組み、事業所の環境行動を広げていきたいと考えています。

（富田）

生活（エコライフ）部会 グリーンコンシューマーになろう！

4月15日、くらしかんでNPO団体「環境市民」の堀孝弘さんをお招きし、「環境問題の視点から暮らしを見直そう」とグリーンコンシューマーについての話を伺いました。

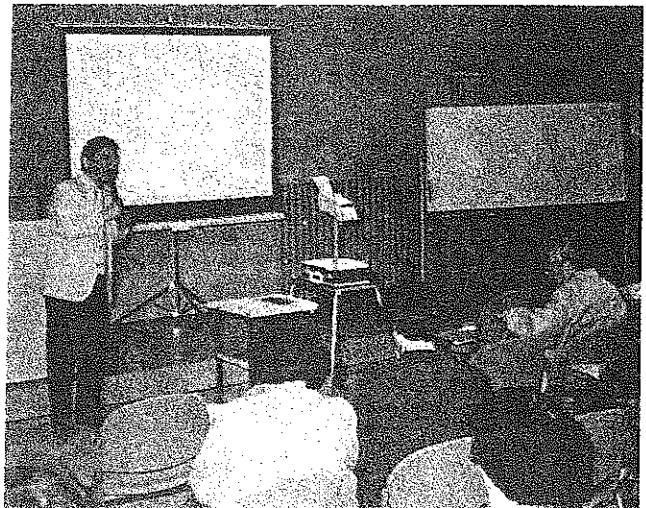
- ①環境を大切にしたい商品（サービス）ってどんなものなの？
- ②どのような商品や売り方（包装の程度など）を選べばいいの？
- ③環境を大切にしたい商品は健康にもプラスになる、など、身近な事例を引きながらの楽しい話でした。自分の生活を変えることが、地域社会に広がっていけばよいなと思いました。

この集会は、エコライフカレンダーで環境家計簿のモニターをお願いしている皆さんに呼びかけて開きました。家庭から出る二酸化炭素(CO2)の量を調べ、記録をお願いしているのですが、モニターは今からでも間に合いますので、どうぞご参加ください。次の第2回学習会は9月に計画中です。

なお、2月20日から3月6日におなわれた「豊中市環境配慮店舗調査」は、廃棄物等減量推進員や消

費者協会の皆さんと一緒に参加、そのときに生活部会としても昨年10月に行ったエコショップ調べ14店舗に加え、追加して8店舗の調査を行うことができました。結果は、追って報告する予定です。

*グリーンコンシューマーとは「環境に配慮した商品の購入など、地球を、環境を大切にして、心豊かな暮らしを創っていかうとする人」のことです。（宮田）



交通（エコトラフィック）部会 ヨーロッパの交通事情

交通部会のアドバイザー新田保次さん(大阪大学助教授)が、客員研究スタッフとして英国で10カ月あまりの研究活動を終えて帰国されたのを機に、イギリスやヨーロッパでの交通政策の新しい動きを聞く会を持ちました。

持続可能な社会を作るといふことと、総合的な交通政策をたてることで、都市の交通のありかたに大きな変化が現れているということです。

豊中駅前で自家用車乗り入れを止める交通社会実験が行われましたが、イギリスでは実験ではなく実際に都心部に自家用車を入れないようにして、今までさびれていた都心の商店街に人々が戻ってきているそうです。車の入ってこない道を歩行者が安心して、買物やウインドーショッピングを楽しむ写真などもたくさん見せていただきました。

今年は交通政策についての勉強会を持ちたいと考えています。興味のある方はどんどん参加してください。

（冨田）



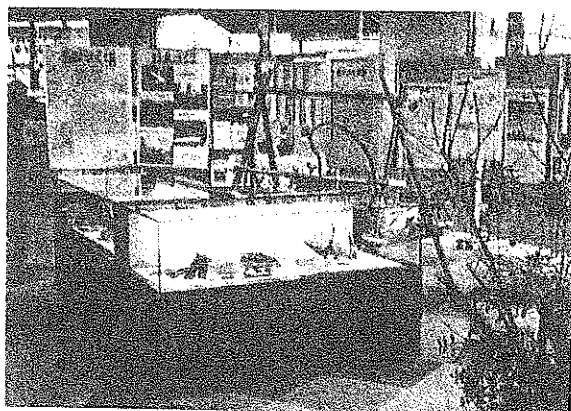
だけすみ

竹炭の会がくやんぼー 広がる竹の世界

竹林の中に足を踏み入れたときの何ともいえない静けさと清々しさ、何か不思議な世界に入ったような心の安らぎを覚えた経験を持った方も多いのではないのでしょうか。

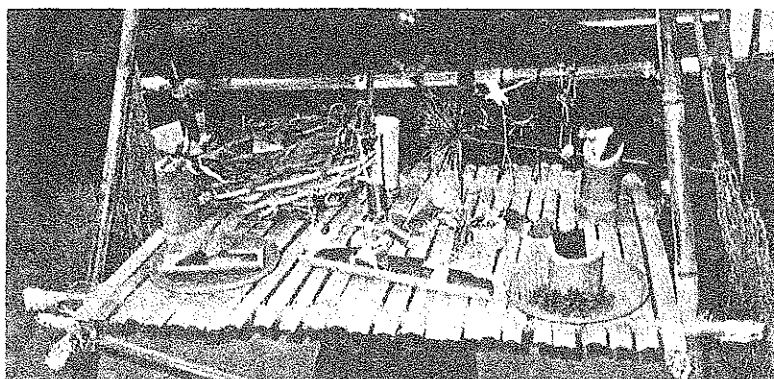
竹には浄化・殺菌作用があり、古くから私達の暮らしにも役立てられてきました。

豊中市内にある竹林の保全・リサイクルを目的に始めた竹炭焼き実験も2年目を迎え、平成11年度は上野坂に場所を移し、他窯の見学など試行錯誤の中で4回の炭焼きを実施しました。また1月に、くらしかんでの“竹炭・竹クラフト”の展示、4月に行われた豊中駅前交通社会実験ガレージセールでは、炭焼きの合間に作った“竹ぼうき”を頒布するなど、インテリアとしての利用や竹を素材にした生活用品の一部も紹介させてい



ただきました。今後は、これまでの経験を生かした作品作りに、そして成果品については、高齢者向けの施設等で使用していただくことも考えております。

この実験を通して、竹が食用としてのタケノコから始まり、皮は包みとして、枝・棹は生活用品・炭材・燃料、煙は竹酢液、灰は土壌改良にと、まったく無駄のない素材であることを知ります。環境保全と健康維持のために、そして子どもたちの心の安らぎの場としても是非竹林を残していきたいものです。（村上深）

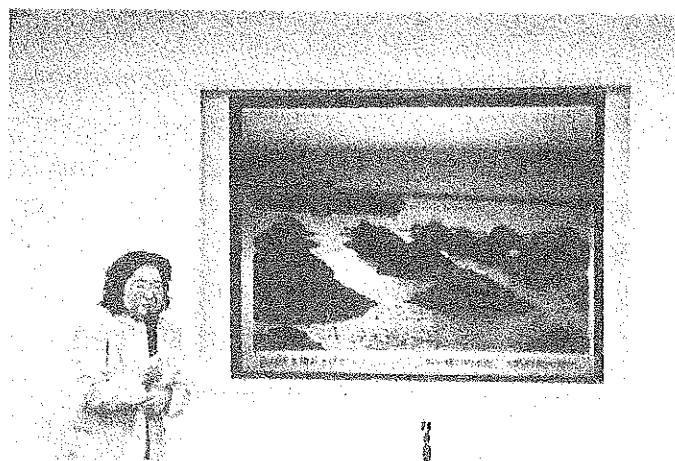


企画屋本舗 プラスチックおもちゃの安全性を考える

地球環境を守るため、私たち市民ができる行動を提案した「豊中アジェンダ21」。多くの方々にその内容を知らせ、行動を呼びかける目的で、市民企画講座「おもしろ環境学」を昨年度は5回開催しました。

第5回は「ちょっと待って！プラスチックおもちゃ」の学習会。講師の真野京子さん(子ども情報研究センター)は二人の子どもを持つお母さん。その体験も踏まえ、プラスチックおもちゃの安全性を素材や廃棄の時まで考えて選んでみようという提案されました。特に塩ビ製のおもちゃの問題点である環境ホルモンの溶出やダイオキシンの発生を鋭く指摘され、おもちゃを選ぶ立場の大人の責任を改めて考えさせられました。

また、おもちゃメーカーのバンダイが、消費者の声を聞かせてほしいとおもちゃ持参で参加され、製造者側の考えを知る良い機会になりました。ただ参加者が30名と少なく残念でした。



子どもの成長に欠かせないおもちゃから、くらしの在り方を考えさせられた内容は、もっと多くの子育て中のお父さん、お母さんに聞いてほしかったなと思っています。（新聞）

生ごみ堆肥化実験プロジェクト 市民・事業者がクリーンランドに大集合

生ごみ堆肥化実験プロジェクトは、資源循環とごみ減量のため生ごみや、剪定枝などの有機物を燃やさず、有効利用できないかと、昨年8月に始まりました。成分が安定し、一定量の確保しやすい事業所の生ごみを提供していただき、大型発酵機械による堆肥化実験を行っています。

5月17・18日には市民向け、企業向けの生ごみ循環フォーラムをクリーンランドで開催し、2日間で約200名の方にご参加いただきました。堆肥化機械の見学の後、生ごみリサイクルの現状などの講演が行われ、両日とも活発な質疑が行われました。参加者の方にはモニター試用として堆肥も配布しました。どのリサイクルでもそうですが、物の循環の輪と生ごみを

取り巻く人の輪（和）を大切にしながら、生ごみリサイクルについて考え、生ごみは資源だということを定着させていきたいと取り組んでいます。（高島）



2月16日 生ごみリサイクル講演会 要約

『循環型社会と生ごみリサイクル』 京都大学地球環境工学教授 内藤正明さん

2000年は循環型社会元年だと言われ、生ごみをメタン発酵させてエネルギーを取り出す装置をついたり、ごみを固形燃料にする施設ができていたりしています。しかし、できたモノをどこで使うか決めないで技術だけ先行して大きな装置を導入し、後で頓挫する例が多くあります。豊中市の生ごみ堆肥化がそのようになっていないのは大変良いことです。

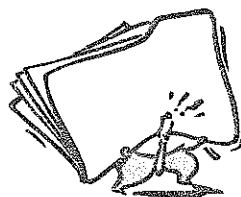
そこで今日は、循環できるものはできる限り循環させるのが原則であるという前提に立ちながら、その具体的な物質収支と経済収支を考えてみたいと思います。

日本が食糧・飼料を大量に輸入していることは、先進国の中でも突出しています。それは国内の廃棄物だけでなく、地球規模で物質の偏在を生んでいます。日本はアジア地域の農産物貿易収支の30%を輸入し、その結果、相当の肥料成分が環境に蓄積され、水域の富栄養化を引き起こしているのです。このような歪んだ構造がまずあります。日本全体を考えると、たちどころに循環は成り立たなくなります。

一方、小規模な循環はどうかと言うと、これも経済的にはいろいろと難しいものがあります。都市圏に位置するKコープは、郊外に設置したコンポストセンターで堆肥化をしています。でも、現時点では経済的

な採算がとれていません。その最大要因は、収集コストとコンポスト化装置の償却と運転費などで、それに見合うだけ堆肥の売却益が得られないことです。収集・輸送が大きな課題であることを考えると、システムスケールを適切に決めることで小規模な循環を成り立たせることも可能です。

それと、法制度の問題もあります。日本のこれまでの社会は縦割行政のもとに所轄され、循環を結果的に妨げてきました。しかし、今は急激に変わろうとしています。農水省と環境庁を事務局とする有機性資源の循環利用に関わる協議会が設置され、私が座長を務めて昨年11月に「有機性資源の循環利用の促進のための基本方針」がまとめられました。循環型社会基本法も国会で論議されています。未知数の問題もありますが、循環システム構築は日本で最大の緊急課題であることを考えても、事態が急速に変わっていくことに間違いありません。（文責・奥野）



おもたいよー！

'99環境展

昨年12月12日(日)、生活情報センターくらしかんにおいて、'99環境展が開催されました。豊中アジェンダ21が策定されてはじめての環境展ということで、豊中アジェンダ21のキャッチフレーズである『創ろう 風と光とせせらぎと ふれあいのまち とよなか』をテーマに、参加団体の展示や身近な環境調べ発表・交流会、シンポジウムなどが行われました。

シンポジウム『環境と子どもを考える』では、スウェーデン在住中から野外生活推進協会の「森のムッシ教室」のリーダーとして活動され、日本に戻られた現在もナチュラル・ステップ・ジャパンの理事として活躍されている高見幸子さんが講演されました。

子ども時代から遊びの中で自然に親しみ、自然の生態系を学ぶことで、人が自然と共生する術や、環境保護の意識を身につけていくという、段階を踏みながら

第1回とよなか環境フォーラム

昨年11月17日(水)中央公民館において、第1回とよなか環境フォーラムが開催されました。このフォーラムは、豊中市の環境基本計画に基づく行政の環境施策や、とよなか市民環境会議の市民や事業者による行動結果をまとめた『豊中市環境報告書』が公表されたことにより、一同に会して意見交流をしようと円卓方式で開催されました。

まず市からは、自転車利用、緑の問題、ごみの現状などが発表され、市民環境会議からは部会の取組み、参加団体である豊中駅前まちづくり協議会などからそれぞれの取組みが発表されました。その後、フロア参加者から環境教育や地方からの発信の必要性など具体的な質問・意見が出され、熱心な討議が行われました。

の学習の必要性をご紹介いただきました。

その後のシンポジウムでは、連合PTA会長の八木さん、神童幼稚園長の北川さん、天王寺動植物公園の早川さんを交えて、それぞれの立場から自然環境教育の必要性などが話されました

創ろう 風と光とせせらぎと ふれあいのまち とよなか

環境展'99



その後、環境報告書について審議している豊中市環境審議会委員の皆さんや、国内外の環境報告書を研究されている環境自治体会議の角田季美枝さんから意見が出されました。

環境施策やその基礎データをすべて公表したことは大きく評価されましたが、市民の環境行動報告の充実や、二酸化炭素削減などの共通目標数値の達成状況とその効果など、さらに充実していくことについて意見が出されました。

このフォーラムが3者相互理解の場となり、それぞれの役割をさらに強化し、パートナーシップで地球環境保全の取組みを推進していくことが確認されました。

出張講座・出前観察会を始めます!

「環境問題について学習会をしたい!」「豊中の自然について知りたい!」そんなアナタ。5人以上のグループであれば、どこへでも伺います。自治会で、子ども会で、職場で、商店会で、学校で、PTAで、公民館で、豊中の、地球の環境について学習しませんか? どうぞ事務局までお電話を。

★スタッフの得意テーマ(講師は市民スタッフがとめます。)

- ◎環境にやさしい暮らし
- ◎事業所・会社のエコオフィス
- ◎生ごみ堆肥化づくりの講習
- ◎小学校区内にある自然観察(植物、水鳥など)
- ◎学校や会社でのビオトープづくり
- ◎自然素材のものづくり
- ◎竹炭づくりとその効用
- などなどなど その他気軽にご相談下さい!

この企画の愛称や登録スタッフを募集しています。ハガキがFAXで事務局までお寄せください。

参加団体の
横顔

とよなかのあちこちで環境への取組み
「オリジナルごみ箱をつくりました！」
豊中建設業協会

とよなか市民環境会議には現在157団体が参加され、各団体のみなさんも様々な環境への取組みを進めておられます。このコーナーではそんな参加団体の横顔をご紹介します。

この新企画のトップバッターは、豊中建設業協会です。豊中建設業協会は市内57社が参加、とよなか市民環境会議には産業部会へ2名の代表が参加し、また「ストップ・アイドリング」ステッカーにも協賛いただいています。では、どんな独自の環境活動をされているか伺ってみましょう。

建設業をめぐる厳しい経営環境から、環境問題への取組み意欲を引き出すのは難しいのですが、環境への対応をきちんとやるのが時代の要請と考えています。大手では単独でも対応できるかもしれませんが、中小では苦勞します。社会のニーズに対応するのは協会が行い、小さなところのフォローをしていかなければと考えています。それぞれの会社ではできることから始めています。例えば、紙ごみを減らすということで、製図用コンピューターを入れて、データや図面のやり取りをパソコンでするようになりました。今までだと、手描きで図面を描いて、コピーをしてたくさんの紙でやり取りをしていましたが、製図用コンピューターを入れてからは紙がずっと減っています。

協会としては、オリジナルの分別用ごみ箱を作って、それぞれの事業所の現場に置くようにしました。燃えるごみと燃えないごみの2種類ですが、建設現場に行ってもらえばご覧になれると思います。通行する人でも使えるように道路に面して置いているのですが、通行する人の中には入れていく人もあれば、入れずにそこらに放っていく人もあります。確実に効果があったのは、現場の警備員が道路のごみを拾ってそのごみ箱に入れてくれるようになったことや、現場の作

業者も、出たごみをそのごみ箱に分別してくれるようになったことです。1基2~3万円するものですが、協会と各社とで半分ずつ出し合って作ったのが、全体の意識の向上につながっているようです。

小さなこと、出来ることに一歩踏み出すことが次の一歩を生み出します。公共団体からの発注も価格だけでなく、環境にどれだけ対応して工事が進められるかという環境会計的な判断が必要ではないでしょうか。（豊中建設業協会・岸岡正美会長、松下雄一郎さんのお話から）



募集

このコーナーを使ってPRしませんか？「わが社では環境を大切にこんなことしてます」「うちの学校では、こんな催し物があります」等、ご希望の団体は、事務局までご連絡ください。自薦でも他薦でも、お待ちしております！

マイバッグ運動の取組み盛んに！

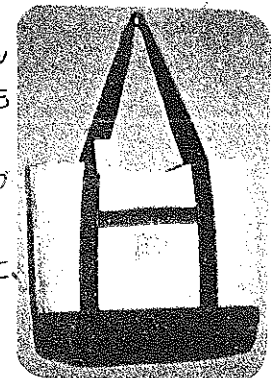
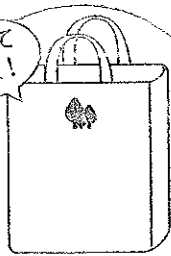
各量販店とも独自の取組みをされている買い物袋持参運動=マイバッグ運動ですが、この6月から参加団体2店による新たなキャンペーンも始まっています。

千里阪急では、回収ペットボトルなどで再生された素材のマイバッグ（エコバッグ）をイベントで配布したり、販売しています。

大阪北生協では、買い物袋持参時に渡すエコシールを一定量集めると、森のマークのバッグをくれるキャンペーンが11月まで行われます。

ごみ減量と資源節約のため、買い物袋を持っていきましょう！

軽くて
丈夫！



創作民話「マチカネワニが危ない?!」

マチカネワニは化石からなんと一瞬目覚め、町を散歩中…。でも、池がない。ベンチがない。喫茶店はあるのだが、文無しワニなので入るわけにも行かない。途方にくれつつ、とうとう小学校に着いたのでひと休みしようと中に入っていた。

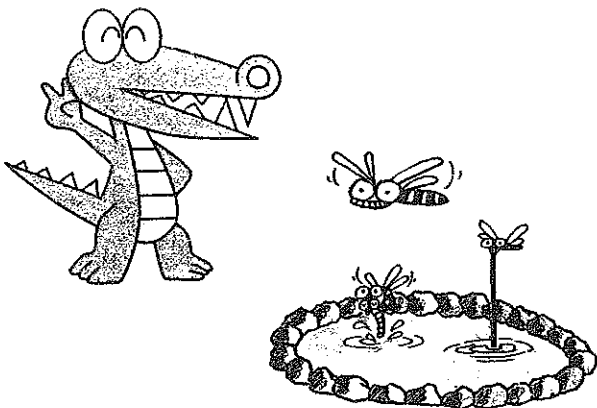
すると、なんと運動場の端に新しい池がある！喜び這っていくと、1人の子が

「これはピオトープです。どうぞ休んでいてください。」

と話した。人だかりができる、その子は恥ずかしいのか逃げるように去った。

しかし、まもなく警察が呼ばれ、ワニに麻醉銃を撃つことになった。係の人が引き金を引く。

「げっ！ヤバイ」が、その瞬間ワニの足元に地割れが起き、弾が当たる直前に地中に吸い込まれた。銃からは逃れたが、また化石になってしまうのかマチカネワニ！次回乞うご期待。(E三宅)



編集室から

今号よりスタッフが増え、広報チームとして企画・編集作業をおこないました。また、今後は年4回発行し、157団体のみなさんをつなぐニュースレターとして機能できれはと思います。インタビューや活動取材にも伺いますので、各団体のみなさん！気軽にお声をかけてください。

P. S. まだまだ編集スタッフを募集しています。我こそはというアナタ！事務局までお問合せください。

広報チーム Z奥野、M荒井、R水谷、E三宅、
N富田、M東郷、W高野

今後のスケジュール

自然学習講座

- 日時 7月22日(土) 13:30~15:30
- 場所 中央公民館 集会室
- 内容 豊中の自然と市民 ~36平方kmに40万市民がどう生きるか
- 講師 石原 忠一さん

水生生物観察会

- とき 7月27日(木) 9時~16時
 - ところ 千里川源流域
 - 対象 小学生と保護者、市民 50人
 - 申込み はがきに必要事項を記入の上、事務局まで7/15 消印有効、
- *詳しくは広報7月号をご覧ください。

アサヒビール工場見学会

- とき 8月19日(土) 午後を予定
- *詳しくは広報8月号をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時~
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分~
- ワキザグループ 毎月第3木曜日 19時~

知らせてください

ご近所で、知りあいで、身近な環境に関する行動をしている人を知りませんか？

「省エネ生活の達人」「ごみ分別の博士」「ごみをよみがえらすアーティスト」「緑を育てる達人」など、市内で活躍している人を教えてください。ニュースレターで紹介していきます。

情報をお持ちの方は事務局までお知らせください。あなたの情報を待ってマス！

発行 : とよなか市民環境会議

事務局 : 豊中市生活環境部環境企画課内

編集責任 : 奥野 享

〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1

TEL : 06(6858)2106 FAX : 06(6842)2802

★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織です